

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

作業やビデオ視聴などによって問を生み、ディスカッションによって体験的に自分の意見を構築できるよう取り組んでいる。その成果はある程度アンケートに反映されていると考えるが、全ての回に取り組めているわけではないので、さらなる工夫をしたい。

自著の本・論文や自分でつくった動画を利用している。

学生からの未回答という項目が多いので、学生に分かりやすいように授業を示したい。

テキスト使用頻度を再考する必要があると感じました。

独自だとまで言えるような工夫は特にありません。一方的な講義にならぬよう、講義であっても学生同士で考えたことを話し合わせるとか、想定している授業内容を薄めてでも学生の理解度を確認しながらペースを落とすといったことはしているが、昨今ではどなたでもなさっていることと存じます。アンケート結果を見ると遺憾ながら工夫が足らぬということでしょうから、より一層の対策が必要ということになるのでしょうか、妙案は思いつきません。

グループ討議の時間や自主発言の機会を多く取り入れた。

授業では、スライド資料のPDFをまなびネットに掲載したり、動画により視覚効果での理解が進むように配慮した。また、前期でのアンケート結果を受けて、授業最後ではなく、授業開始時に小テストを実施することで、遅刻者との差別化を図った。資料のまなびネット上へのUPについて、初年度ということで授業準備が直前もしくは当日早朝までかかることがあったが、今後はできる限り早めにアップすることを心掛けたい。

2023年度の同授業の反省を踏まえて授業内容を練り直したところ、2024年度授業ではその改善策が有効に機能したことが学生の意見から判明した。来年度以降はグループワークのまとめや成果公開について再考したい。

対面授業と遠隔授業の使い分けを工夫している。講義や課題説明のための時間を遠隔授業に回し、対面授業は主に課題の提出物を利用したレビューや振り返りの時間に充てている。対面の時間が限られる分、アンケートからはグループディスカッションの時間が少ないという意見が伺えた。その時間を確保することが今後の改善点である。

専門の知識を学習する授業であり、アンケート項目にそぐわないものがあるが、データ紹介、検索をしながら学ぶ工夫はしている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

専門科目では、グループ発表や制作物の相互評価・鑑賞などアクティブラーニングを多く取り入れた。アンケート結果はおおむね良好だったので、来年度も改善しながら続けていきたい。

実際に学校現場に出たときに少しでも役立つ内容を考え、授業を行っている。学生が必要と思うことも取り入れながら、実技をできるだけ多く取り入れた授業形態で行い、教職に対して前向きな姿勢をさらに育みたい。

本年度からは振り返りや事前学習がしやすいように、主にTeamsを使用して資料配布や補足や情報提供などを進めていたが、一部紙媒体もあったほうが理解しやすいという回答もあったため、重要な箇所など部分的に紙媒体配布なども検討しながら、学生がこれまでの学習を整理しやすいように工夫をしたいと考える。また、関心を高め、自ら関連する資料や参考文献などを調べる行動に対してはどちらとも言えない学生もいたため、より関心を高められるようなアプローチを今後検討したい。

電気を学ぶ者にとって最も基礎的な内容であるため図を多用し、具体的にイメージできるような授業方法をとっている。学習者とのキャッチボールを重要視し授業を進めている。授業者の理解度を確認するため毎回の小テストを実施している。遠隔授業であってもオンデマンドであることにより、概ね授業目標を達成できているようである。

今後も学校現場での図画工作科、美術科の授業を指導していくうえで、教員としての必要な知識・技能を中心に、実践的な内容を扱っていく。特に、題材開発、指導方法、学習指導案作成、ワークシート作成などに取り組んでいきたい。

参考資料、講義ノート、課題の提出などをすべてTeamsで行うこと及び、ワード、エクセルなどの操作法も併せて授業で取り入れることで、学生のICT活用力の育成に貢献すること、また学生が収集したデータの分析方法に興味を持てるようにしている。また、提出された課題には極力コメントをするように努めている。アンケートの結果を見ても概ね学生にはこの方針が受け入れられたものと考え。専門教育科目の結果を見ると、グループワークの機会があまりなかった点に不満があるようだった。当該授業はコース全員の必修になっているため受講者が多く、また法律・法制度に関する一定程度の知識を修得しないままグループディスカッションを促すと、誤った理解を前提にした議論になりかねず、むしろ弊害がある。今後は授業者との対話的な場面を増やすように工夫したい。

タイトなスケジュールの授業なので、あらかじめ学生が見通しを立てることが出来るようにスケジュールを提示しながら行っていた。効率ばかりを求めて、授業の中で意図していた他者との関わりの重要さがあまり理解されていなかった学生もいたようなので、他者と関わるチームアプローチを体験していく必要性について伝えることも必要かと思った。

実技の授業において、受講生が学んだものをそのまま制作して完成するのではなく、制作の過程で試行錯誤したり実験したりしながら作品等を作り上げていくことができるように内容や方法を工夫しています。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

教科書のほかに、追加の資料（プリント）を配布している。また、授業で取り上げた都市の景観をスライドを用いて説明している。概ね好評である。

おおむね評価は高かったようです。工夫は特にありませんが、毎回の授業内容の趣旨や目的については、冒頭で必ず伝えるようにしています。

普段から授業内でアンケートを実施しているためか、今回の授業アンケートに回答している学生が少なかった。今後はしっかり周知させるよう心掛けたい。

理解の深化を促す問いの用意に力を割き、受講者同士で意見交換をしながら体感的に把握できる場を作ることを行っている。それにより、能動的な授業参加のきっかけが得られ、自分の言葉で授業がわかることに結びついている様子がうかがえる。試験については毎回細かな要望があり、可能な限り改善に努めている。特に不公平感が生じる可能性がある要素については学生は極めて敏感であることがアンケートから伝わってくる。次年度以降も工夫をしていく予定である。

実践的な指導力を育てるため、学習指導案の書き方や授業の進め方について、丁寧な説明を心がけた。教員側から説明を行うだけでなく、学生から質問を出してもらい、それに回答するなど、学生の目線に立った授業を心がけた。例年に比べ、「関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った」という質問項目に対する肯定的な回答の割合が高く、授業の成果が学生の主体的な行動となって表れている点はよかったのではないかなと思う。引き続き、学生自身に関心や問いをもってもらえるような授業を心がけていきたい。

アンケート結果を受けての改善点：「授業のなかで提示された専門的知識を、体系的に、また他の分野や事象とも関連づけながら理解できた。」「授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った。」について授業で不十分であると感じている。授業の中で、他の分野との関連性を示すことや、関連する資料や文献を調べたいと思うような動機づけを行う必要がある。また、学習指導案を書かせる課題については、評価規準を事前に示すよう改善を図りたい。指導案の採点基準を先に提示してほしいです。

専門教育科目の講義では、他講座ごちゃ混ぜでチームを組んだことで、「集まって検討しづらい」という課題を指摘され「確かになあ」と感じた。次回の講義から気をつけたい。一方で、講義の内容自体は面白いという効果が多かったのも、自信にもなった。様々な工夫を行なって講義を行なっているつもりだが、それが受講生にも好評だといえる。特に「現場でも使えそうな内容ばかりだった」と言っていたので、引き続き、講義内容を洗練させながら頑張りたい。

グループディスカッションの機会を多く持ち、本授業で学びを深めれた点及び疑問点等についても相互に共有し、最後は全体に発表する等、個及び集団で知識等を深めることができたと考ええる。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

算数に対してはあまり興味をもっていない学生も多いので、興味の持ちやすい題材を用いたり、簡単な問題から発展・追究させるなどして算数の問題に取り組む楽しさを味わえるようにした。概ね好評なようでもあったため、引き続き努力する。

アクティブラーニングを積極的に導入している。指摘された内容については、可能な限り修正してゆきたい。

実感がもてる体験的な学びを意識して授業内容や方法を考えていますが、ある科目では一定の効果があったアンケート結果でした。全学である程度講義内容が定められている科目に関しては、効果があまり見られなかったのが、今後改善をしていきたいと思っています。

グループディスカッションや自分で調べる学習の機会を多く取ったことは評価されたと思う。ただし、積極性に個人差があり、課題の出し方やその評価の仕方をもう少し改善する必要があると思いました。

普段、学習する医療に関する内容で難しく感じる学生が多いと思われるので動画などを多めに使用する

受講生が、自分の所属する講座以外の教科コースの学生がほとんどなので、教科の授業法のベースとなる学級経営にかんする心理学を主に講義するようにしている。ただし、説明が十分でなかった内容もあり、今後、時間配分など変えていきたい

授業の復習に役立ててもらうため、そして欠席者のフォローのために、授業動画を公開している。今後も履修者の学習意欲を刺激するような授業展開を心掛けたい。

【独自の工夫点】演習問題を自動で生成するウェブサイトを作っている。
【改善点】今期は特に批判的なコメントがなかったので少しずつアップデートしながら授業をより良いものにしていきたい。

オムニバス形式なので、それぞれの対応について密に連絡をとっている。

書写を16回の内2回のみで行っているため、触れる程度のしかできない。要点のみに絞って広範囲を扱ったので、筆に触る時間が短くなってしまった。もう少し工夫して、時間を設けたい。

予習、授業中、復習に活用できるように、各回ごとの授業内容コンテンツをまなびネットにあげている。アンケート結果からは学生の自己肯定感が低く感じられたので、授業中に称賛をするよう心掛けたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

・専門教育科目(1)について1年生の後期、約60名の必修授業で、漢文学の基礎を教える授業。前半は漢字学習の基礎となる知識、後半はより広く古典(古文や漢文)学習に繋がる知識を習得することを目的としている。基礎知識に関わるもののため、レジュメはかなり詳しく作成しつつ、毎回パワーポイントを使用して、画像資料を見せるようにしている。また多人数の授業でもあるため、集中力を保つために、授業中に作業する課題を特に前半では設けている(自作漢字や古文字解説など)。レジュメは、授業後に「まなびネット」上にpdfファイルをあげている。毎回、出席と合わせてコミュニケーションペーパーを書いてもらい、質問事項等は次回フィードバックしている。今回のアンケート結果でも、そのあたりの工夫は比較的結実しているように思われる。自由記述では、予習課題を求める意見が二つあった。人数的に、課題を事前にやってくることを前提とした授業はなかなか難しいところがある。また「概説」という性質上、予習よりもむしろ授業後に、興味ある部分については更に学んで欲しいという意図で、附属図書館に所蔵される本を中心に参考文献を多く提示するようにしている。ただ、これについてはもう少し改善できるように考えてみたい。

・専門教育科目(2)について授業の後半では、漢詩のルールを覚えるために実際に作成するという課題を設けている。そのための知識やツールなどは注意して提供しているため、やや難しい課題ながら、それについてはアンケートでは特に不満がないようであったのは良かった。ただ、アンケートの提出割合が少なく、授業の評価としてわかりにくいところがあるので、今後は期末試験の試験前の時間を使うなど、改善をしたい。

・共通教育科目についてアンケートの提出割合があまりに少なかったので、専門教育科目(2)と同様に注意したい。

・外部の専門家を招き実践的な話を聞いたり、フレームワークを使って課題を明らかにさせるなど、学生が主体的に取り組むための支援を意識した授業を心掛けている。

・teams、まなびネットでのアンケート機能やチャットの活用など、授業のなかでの学生とのリアルタイムな意見交換について取り組んでみたが、効果的な活用方法については、今後も試行錯誤をしていきたい。

・学生の意見では資料、プレゼンにメモを取るための余白が欲しいというものがあった。要点を絞った資料の作成やキーワードの明示など、学生が思考を整理したりアイデアを書き込めるような資料づくりを心がけたい。

できるだけ一人一人に発言の機会を与えることができるように工夫している。発言の機会を与えられることで、授業参加意識が高まると考えている。アンケート結果ではサイレントマジョリティーがどう考え思っているかを知りたいと思った。同じ授業でも受講者が違うと結果が大きく変わるので、どのようなところを改善するかを考えるのは難しく、相互作用的なことを考える必要があると思った。

授業方法について工夫している点の一例を挙げると、授業中に個人で考える時間、その後で周囲の学生と交流したり全体で共有したりする時間を取り入れること、グループ分けの際にも学生自らが動くようなしかけを取り入れること、評価基準の目安や次回までの授業外学習、レポートのチェックリストなどを明示することなどがある。このような点が、アンケートの質問2(教え方の工夫)・3(自主学習・課題の指示)・4(質疑応答の機会)・8(学生の関心・行動)で「よくあった」「とてもそう思う」の割合が比較的高くなっている要因と考えられる。自由記述でも「意見が出しやすい環境があった」「レポートの内容や形式がわかりやすかった」といった意見が見られたため、これらは来年度も継続していきたい。一方で、「模擬授業の形式や指導案の書き方はわかりにくかった」などの意見もあったため、それらは今後改善していきたい。また、まなびネットのフォーラムに関して「課題についての質問は早めに回答してほしい」という意見があったが、これについては、回答を急ぐ質問はフォーラムに投稿するのではなく個別に連絡するよう促したい。

保育者の言葉がけ・態度の重要性を体験から理解できるようにしている。また、絵本等の読み聞かせを学生同士で行い、実践経験を積むことができるようにしている。アンケート結果から、学生は授業内容について理解を深められたと考えられる。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

良い方法だけを指導するのではなく、悪い方法も説明し、実際に学生に両方をやってもらいその違いを体感してもらうようにしている。

・今年度から、コロナ禍前の講義内容・方法に戻しつつ、まなびネットでの補充学習等を組み合わせるなど、前年度の改善点を意識して講義しました。
・その影響もあったのか、講義内容の理解が十分に追いついていないというコメントがありましたので、次年度はより講義内容が理解できるよう、改善したいと思います。

全体として概ね良好な結果であったと考えられる。スポーツ実技を主題として扱うが、その根幹は運動量の確保と運動習慣の形成、また指導技術の定着にある。男女の共修科目であり、主題となるスポーツ種目における経験者と初心者が混在する中、概ね良好な結果が得られたことについては一定の評価ができるのではないかと。本講義の履修者は扱うスポーツ種目における経験および技術習熟度の差がみられるものの、各種目の未経験者が多くを占めている。授業展開としては、ゲームの運営や、実技指導のための学習を主体的に行うことができ、戦略的かつ実践的にスポーツを楽しめる素養を持ち、育むことができるよう、習熟が進むような形態とした。ルールを理解や基礎技術の習得は、生涯にわたってスポーツを楽しむ上でも、また教員として指導にかかわる場合においても欠くことのできない基盤となる。全体的に満足度がある程度高く見受けられるため、本講義におけるねらいに対し、効果的な内容を展開できたと考えられるのではないかと。授業の展開については大きく変更せず今後も展開していく予定である。各種目における基礎的な技術の習熟を促し、楽しむ姿勢を養うことで、教員として生涯にわたりスポーツを楽しみ、また指導を実践していくための素養を醸成していきたい。

学生による評価を確認しました。多くの授業で（私が担当する分については）それほど悪くない評価をいただいたと思います。今後も引き続き学生の興味を引き出せるような工夫をしていきたいと思います。一方、他の教員と分担して担当している講義（特に、学部2年の専門教育科目）については非常に厳しい、辛辣な意見と指摘が多かったです。私が担当している回についても学問の魅力が伝わらなかった、あるいは嫌い（食わず嫌い？）にしてしまった可能性があり、困惑しています。

・学生が主体的に思考できるように、グループ活動を多く取り入れた。リフレクションシートを読むと、仲間同士で意見交換することで新たな気づきがあったというような感想を多く寄せていた。
・グループ編成はどのようにしたらよいか考えさせられた。受講人数も多かったが、いつも同じメンバーがいいのか、異なるメンバーがいいのか、自由に組ませているのか、指定した方がいいのか・・・学生と話し合いながらその時々考えたが、結構気を遣うところもあった。
・指導案作成は個別に支援できるようにした。メール等で質問してくる熱心な学生もいて感心した。
・実践的な能力も身につけてほしいと考え、具体的な資料や授業記録を用いて理論に結びつくように取り組んだ。紹介した資料や授業については、印象に残ったというようなことがレポートに書いてあったので、そこから実践力を高めていってほしいと思う。

ペアやグループでディスカッションしたり、意見交流をしたりする機会を意識的に設定することで、多様な考えを知ることができるようにしている。今後、もう少し他の教科、学習と関連づけて授業を進めていけるようにしていきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業方法で独自に工夫している点としましては、対話型の授業をしていることになります。学生同士が対話できる（対話しやすい）関係になるために、対話のグランドルールを設定したり、緩やかにカフェミュージックをBGMとしてかけながら場の空気を演出しています。アンケートの記述部分からも、学生たちが対話しやすい環境の中で、対話型の授業を行うことができていたことが伝わってきました。

受講生の学力などのレベルに合わせたところから始める授業を心掛けている。

共通教育科目（1）の授業に関して、概ね高評価ではあったが、「グループ・ディスカッション」に関する項目での低評価が目立った。確かにこの授業の中でグループ・ディスカッションを取り入れていなかったのも、今後、こうした方法を取り入れることを検討したい。また共通教育科目（2）に関して、同様に「グループ・ディスカッション」に関する項目での低評価があった。これも合わせて改善策を講じたい。また共通教育科目（3）に関しては、「論理的思考・課題探求力」の項目もやや低かった。語学の授業でこの項目を達成する方策にどのようなものがあるか迷うところもあるが、検討課題としたい。

今回の結果では、「未回答」の割合が全履修者数の8割を占めていたため、残り2割の回答から判断したことに基づいて記述する。問1～8の8項目のうち5項目においては、全体として肯定的な回答を得ることができた。残り3項目については反応が分かれたが、これらは、他分野・事象との関連づけを問う「問6」、汎用能力の向上を問う「問7」、自主的な調査の有無を問う「問8」である。本授業では、日常的な話から社会問題に至るまで、履修者が英語で幅広いトピックについて自らの意思や意見を表現しつつ、様々な分野・事象への興味関心を深められるよう努めている。「必修」で「語学力」の向上を目指すという科目の性質上、多様な履修者の汎用能力や自主性などを全員漏れなく高めるのは難しい課題であるが、従来の授業内容に加えてさらに発展的な活動を取り入れるなど、できる限りの努力は行っていきたい。自由記述の設問では貴重な意見が複数寄せられ、書いてくれた履修者たちに感謝している。寄せられた意見のうち、ここでは特に、辞書とパソコンの使用に関する意見に回答したい。本授業で「辞書の持参」を平常点に含めているのは、語学学習者にとって辞書がもっとも大切な「養分」だからである。辞書の使用頻度と掲載語彙数が持ち主の語学力に影響すると言っても過言ではない。愛教大の学生にはぜひとも、「語学学習には辞書が必須である」という高い意識を持ち、学習の際は常に辞書を使う習慣を身につけてほしい。また、自分の英語力を今より伸ばしたいという気持ちが少しでもあれば、中高時代の辞書は卒業して大学生・社会人向けの辞書を使い始めてほしい。パソコンについては、語学演習中心の本授業では特に必要とする場面がなかったことと、手書きの方がスペルを覚えやすいという理由から、授業中の使用は控えてもらった。しかし、活動内容によってはパソコンを使う方が効果的と思われる面もあるため、これを機に今後の導入を検討したい。

グループでディスカッションを行ったものをプリントに書いて提出してもらい、それを全員に配布することで共有している。

学生全員が授業に積極的に参加できるように工夫している。具体的には、学びネットを活用している。授業中のフォーラム投稿、ディスカッション、授業外では課題（クイズ）を実施。その他、課題の提出、資料の提示、配布、学生の作品の展示、コメント、学生の交流等である。改善点は、学生へのフィードバックを充実することである。

ジェンダーに関わる認識は多様であることを意識し、互いの差異を尊重する姿勢をもって議論することが、学びを深めるために欠かせないと考えており、学生同士で意見交換ができる時間を作っています。アンケートでは、自由記述のご意見が大変参考になりました。これからも、一人ひとりの声・ことばを尊重し、それに応える授業を展開していきたいと思えます。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学生が主体となって授業を受けることができるような学習課題の提示と、演習を複数回取り入れています。これからは、自己選択の機会を増やし、学生の満足度を高めたいと考えています。

小中学校の授業場面を想定できるようにして、具体的な子どもの反応やそれに対する教師の発問の在り方を考えられるようにしている。

書道演習の授業なので、できるだけ学生の演習時間をとるようにしている。教員になったときに正しい文字を書けるように、字形の整え方を中心に指導している。毛筆書道演習だが、毛筆の技術ばかりに意識がいかないうちに、硬筆の課題も出し、添削を行っている。

小学校音楽科の実践を紹介するだけでなく、実際に取り組んでもらったうえで、自ら指導計画を作成し、模擬授業を実施させている。

できるだけ対話型に努めている。双方向の対話から「受講者学生のニーズ」と「授業の実践上の切実な問題」に応えるには、できるだけ教材アイデアに結実できるようにしていきたい。

①工夫:理論と実践の融合を心がけ、講義で語った理屈に対応した実践VTRを視聴させている。
②改善点:最終年と思い切り「振り切った」内容で行った講義に手応えありました。学生の食いつきが違い、すべて肯定的な自由記述を拝読し、「もっと前から振り切れればよかった」ことが反省点です。

できるだけその場での理解と定着を図るため、新しい概念・方法が登場するたび、必ず対話的に演習の機会を入れるようにしている。

基準に達していない項目についてレポートにチェックを記入して返却していますが、分かりにくかったようですので、今後は基準に到達している項目がわかるように記入したいと思います。

授業で取り扱う内容を事前に配信して授業当日までに学習させてディスカッションを取り組みやすいようにしている。

授業後にコメントシートを回収し、そこに書かれた質問には次回授業の冒頭で回答するようにしている。自由記述に「小さな疑問、質問にも回答して下さるのがありがたい」というコメントがあり、今後もこのやり方を継続していきたい。また、配布資料の難易度がやや高いという旨のコメントもあったが、これについては解説の充実などによって対応していきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学部授業に関しては、1学年全体で共通教材を用いており、意見交換が活発に行えるようにしている。アンケートは、回答数が少なすぎて参考にならない。

講義に加えて反転授業やグループワーク、ディベートなどアクティブラーニングを利用している。今後も学生の意向を調査しながら学問的基盤の確立と主体的な学びの姿勢を醸成できるよう努める。

工夫した点は、毎回、授業の始めに、本日のねらいに応じたグループワークを設けた。また、授業の終わりに振り返りを書いてもらった。多くの学生が、他の学生の意見を聞いたり話し合ったりして、勉強になったと書かれてあった。また、私の小中学校の教員としての経験を聞いたり新聞記事を読んだりして、教師に向けて意欲を高めることができたと書かれてあった。振り返りには、朱書きを入れた。改善点としては、学生にもっと教員の魅力を伝え、興味・関心をもって取り組む意欲のわく授業展開を工夫する必要があると考える。そのために、最新の教育情報を伝えたり、学生自身が自ら調べたりする工夫が必要だと考える。

講義については、一方的ではなく、学生が議論する時間を設けながら、より主体的に学びが深まる工夫をしている。実技に関しては、多様な人と関わり学びが深まる工夫をしている。男女のペアを組むことに対して反対意見があったため、男女での組み方などは配慮していきたい。

講義形式の授業については、動画等を活用し、実際の（特別支援の）教育現場の様子や実践活動の様子を見れるようにしている。また、演習形式の授業においては、（肢体不自由児の援助等に関し）実技演習の機会も設けながら、体験を通して少しでも実感を持って理解ができるようにしている。なお、アンケート結果については、（それなりに良好に受け止められている印象ではあったが）未回答が多く、あまり参考にすることはできなかった。

担当する授業のうち、共通教育科目では、授業中に随時学生に意見を答えてもらう機会を設けること、また、数回をグループワークを通じたディスカッションにあて、学生どうしが学びあえる機会を持てるように工夫した。学生にとってあまりなじみのないテーマだったこともあり、より丁寧にテーマを取り上げる狙いや、学習を通じて獲得してほしいものを伝え、学習のモチベーションを上げるよう改善したい。

実技の授業なので個々に合わせて細かい指導を心がけているが、体系的にどういう所で役に立つのかといった説明を、授業内にもう少し増やそうと感じました。

アンケート結果からの改善というわけではないが、後期の共通教育科目の授業は、あまりにも受講生の関心をひかない内容だったので、次年度は内容を変更することを考えている。専門教育科目については、これもアンケートの結果云々とは関係ないが、あまりにも試験の結果がよくないので、授業方法の改善を考えている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

担当する授業において、ICTを活用して自分の考えを発信したり、学生同士がグループディスカッションを通して多様な視点に気付いたりする活動を通して、思考力や課題解決能力が高めることができるようにしている。アンケートの回収について学生に働き掛ける必要があると感じたが、提出された内容からは関心と意欲をもって学修している様子が見受けられた。今後もさらに授業内容を改善し、学生の学びの充実を図りたいと考える。

①専門教育科目(1)

問1～問4については「よくあった」「ある程度あった」が主に選択されていた。授業全体の予定や課題の提示等はガイダンス時に具体例を示しながら説明している他、各回に学生間でディスカッションをする機会を作っていることが理由と考えられる。他の分野と関連付けた理解や、社会生活や職業生活において重要な汎用的な能力に関する質問項目等では「よくあった」「ある程度あった」の他に「あまりなかった」「どちらともいえない」という回答も見られたため、今後の授業内容を考える際に意識したい。

②専門教育科目(2)

全体的には「よくあった」「ある程度あった」が主に選択されているが、他の分野と関連付けた理解や、関連する内容について自ら調べることにに関する項目等では「どちらともいえない」という回答も見られたため、授業内容への興味・関心を高められるよう、授業内容を考えたい。本授業は学生が実践・発表する機会が多く、実践時の工夫点を事前に説明したり、実践後に良かったところや改善が必要なところを個別に返したりしている。しかし、今年度は一部の発表課題について説明が不足し、課題の作成方法が曖昧なものもあったため、次年度以降は課題の取り組み方やルールについて、具体例を出しながら明確に示したり、課題内容を改善したりする。

工夫している点は、演習の時間には見回りをし直接学生から質問を受けようとしている点、また講義内容が難しいため丁寧に語ることに努めている点である。アンケート結果を受けての改善点は、ディスカッションの時間をもう少し取るべき点である。

グループワークによる協働的な学びを通じた授業実践を課題のなかに入れているが、グループ内にモチベーションの低い学生がいることによる不満がアンケートに書かれていた。今後、グループ分けをどうするか、検討したい。

工夫している点:なるべく現場の最新の動向を伝え、学生自身が考えること。

改善点:このアンケート結果は回答率が低すぎて参考にできません。

授業方法についての工夫点としては、大人数の授業が多いため、授業内でできるだけ簡潔に説明すること、資料だけを見たとしてもある程度理解できるように授業資料の作成、できるだけ授業内で学習に参加できるようにすることを意識しています。アンケート結果については、授業の評価結果と実際の事象にやや乖離が見られるような印象を受けました。今後はその乖離が埋まるように、できるだけ丁寧に説明をしていくことを改善点として考えています。

毎時間、授業の後半(約40分)にグループディスカッションを取り入れた。また、生徒指導に関する問題の場面指導練習も5回取り入れた。改善点として、シラバスに示した目標をより意識した授業展開を目指す。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

工夫している点については、教材に、できるだけ学生にとって興味がわくもの、あるいは役に立つものを選ぶよう心掛けている。改善点については、クラスによって反応の仕方が異なるので一般的なことしか言えないが、英語自体に興味を持てるような工夫をもっとしていく必要があると感じる。

自身が担当した授業について。専門教育科目(1)は、例年30名ほどが受講する。英語を教える上で最低限必要な音声学の知識を知ってもらう授業である。例年使っている教科書は、内容が盛りだくさんで、必要とは思えない内容もあるため、しだいに取捨選択するやり方に変更してきている。そのためか、「スピードがかなり早かった、使っていた教材の答えを曖昧にしか聞けなかった」という学生のコメントがあった。また、「教科書を読み上げているだけ」という感想もあった。いずれも反省すべき点である。来年度は別の教科書を使い、音声学の理論面と、実践面(聞き取りなど)をバランスよくやりたい。専門教育科目(2)は日本語支援専修の2年生のほぼ全員が履修する授業である。特にコメントはなかった。言語の研究にはさまざまな側面があること、実生活に密着した研究がありえることなどを、私の講義と論文講読(紹介)を合わせた授業をした。コメントペーパーも書かせて、少しでも能動的に授業参加してもらうようにした。コメントペーパーの内容や、一部の学生の感想からは、肯定的な意見があったので、それを励みにして、さらによりよい授業を構想したい。

実技の授業であるため、あまり予習や復習への課題を出していませんでした。今後は、実際に授業で行ったことを実生活に活かせるような課題提示をしていきたいと思います。

独自に工夫している点は、授業の板書や配布する資料に多数の図表を用いて説明している点です。改善点は、説明の足りなかったことを、次回の授業で忘れないように補足することです。

講義スライドの視認性や学生の理解を促すような工夫(フォントサイズ、分量など)を行っている。また、今回の結果を受け、理解だけでなく、さらにその先の学生の「探求したい」という意欲にまでつながるよう、内容を精査して次年度の講義に望みたい。

授業の方法について独自に工夫している点に関して、学生が授業に参加できるよう、グループディスカッションやグループ発表の時間を設けている。また、授業時間外にも、授業内容について調査したり自身の考えをまとめる時間を作るため、レポート課題や調べ学習の指示をまなびネットを通じて行った。そのため、授業全体を通しておおよそ評価して頂いているようだが、「シラバスに掲げる授業目標から考えると、自分は「目標を概ね達成したレベル」を越え、より優れて学べていると感じる機会があった。」という項目については少しポイントが下がっているように感じた。学生自ら目標を達成できたと実感できるような工夫を授業に取り入れる必要があると感じた。

共通科目で複数のクラスの補助として担当させていただきました。オンデマンドで学習し、対面授業でグループワークという形で進めていましたが、オンデマンドで課題をしていないとグループワークに参加しても発表等ができない場面をよく見ました。オンデマンド授業でも課題をきちんと確認して対面授業に参加するよう学生にさらに周知していく必要を感じました。

工夫した点は、教科の理論とスキルが往還できるように、講義の構成を考えている。現場で役立つスキルが体験できる機会を多くする。

独自に工夫している点は、授業の中で探究的に学びやすいような授業設計をしていること。また、アンケート結果を受けての改善点はアンケートに協力してくれた学生さんの総数が少ないため改善に向けた分析ができませんでした。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

(独自の工夫) 授業の最初に、出席確認をする代わりに小テストを行っている。小テストは、基本的には、前回の授業で扱った内容に基づいて出題するが、教科書を指定している場合は、毎回の授業が教科書のどの部分を扱っているのかを解説するようにしている。それは即ち、次回の小テストで出題される可能性が高い箇所であるし、アンケート問3の「予習・復習などの自主学習や、小テスト・レポート等の課題について、授業やシラバスで指示があった」の項目に対応する指導の工夫と考えられる。

(改善) 今回のアンケートでは、問3に「あまりなかった」と回答する学生が1人(2.5%)いた。もしかすると、授業の初めの方だけでなく、終了直前に(毎回、授業終了5分前にアラームなどを鳴らして)、一定の時間をもって、丁寧な解説をした方がよいのかもしれないと思った。

学生が初めて接する学習内容であることから、知識と実際の様子が分かるように、対面授業では画像を、オンデマンド授業ではネット上のコンテンツを調べたり、医療現場の様子がわかるように工夫をした。今年もインフルエンザが流行っている時期で、グループワークについて消極的であった可能性がある。グループワーク機会を充実を次年度は図りたい。

学部3年生の教育実習に関わる集中講義と、学部2年生の教科指導法の授業について、アンケート結果を得られました。どちらもとも、学生からの回答はおおよそ良好であり、胸をなで下ろしています。どちらも、指導法に関わる内容でした。指導法の性格上、「場面指導」や「模擬授業」を行う必要がありました。しかし、本学は指導法の履修学生が多いことから、一人一人に十分な模擬授業を行ってもらう時間がありません。そこで、少人数のグループで行うマイクロティーチングに取り組んでももらいました。特に、まだ教育実習の経験のない学部2年生の授業では、できる限り多く模擬授業の経験をしてもらい、客観的に自分が授業をしている姿を知ってもらおうと考えました。そこで、授業の最後に、小学校外国語(外国語活動)の、授業内の一場面を切り出したという設定で短時間の模擬授業を行わせ、それをiPadに録画させ、自分の授業をしている姿を(時間がゆるせば)見せるようにしました。どちらも、指導方法を知り、指導技術を高めることを目的とした授業であったため、(理論的な)知識の理解を深めるという内容の授業ではなかったことから、知的好奇心をくすぐるような時間とはならなかったのではないかと思います。その点、満足できない学生さんがいましたら、申し訳なく思います。ありがとうございました。

コンテンツ・レベル両面で、学生のニーズに合った授業、実習となるよう心がけています。アンケートではおおむね高い評価と捉えましたが、一部他授業内容との重複を指摘された箇所があったので、来年度の授業内容を検討します。

単にスポーツを通した運動の楽しさの理解だけではなく、様々な運動獲得方法を教示することで、多様な身体運動の捉え方を養うように工夫している。アンケートの結果を受けて、学生が学習内容を将来を見据えた文脈で理解できるように次年度工夫する。

- ・毎回の授業の導入に、教育全般に関する最新の情報や授業に向かうモチベーションを上げる雑談を取り入れて、学生が興味をもって講義を受講できるようにしている。
- ・学校現場で行われている実際の授業をイメージしやすくするため、映像資料を効果的に用い、児童の学びの姿、教師の指導援助の手立てを実感できるようにしている。
- ・アクティブラーニングを心掛け、グループワーク・ペア活動を積極的に取り入れて学生自身が主体的に授業に向かえるようにしている。
- ・事前に資料を送付し、予習をもとに講義を受講できるようにして、講義内容の理解をより深められるようにしたり、復習に活用したりできるようにしている。
- ・学生から提出された課題に対してのコメントを全体で共有し、前回授業のリフレクションをもとにして講義を進めている。
- ・体調不良や公欠の場合の欠席について代替課題を出すなど、個別にきめ細かく対応し、欠席が続かないように励ましている。
- ・学生からの要望により、まなびネットにデータで課題が提出できるようにする。
- ・資料の精選、出典の明示や、課題ノートの作成のしやすさを工夫するなど、学生の声を聴きながら改善していく。課題や事前送付の資料は授業後すぐにまなびネットにあげるようにし、主体的な学びを促すようにする。
- ・非常勤講師なので、個人用アドレスの方が連絡が付きやすく対応も迅速にできるため、学生にはシラバスで個人メールアドレスを知らせるようにする。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

【独自に工夫している点】これまで講義の授業では、①テキストの適切な使用、②補助プリントの作成、③新聞記事等を活用した現在の教育問題との関連づけ、④小レポートを活用した双方向的な授業などの工夫を行ってきた。最近「まなびネット」をできるだけ活用することになっている。資料の作成に際しては、見やすいPPTスライド作り、情報の明確な提示、分かりやすい授業展開、教科書や補足資料への効果的な指示（関連づけ）に注意した。また、学生の負担が過重にならないよう、課題提示の回数を抑えることにした。

【アンケート結果を受けての改善点】回答率が（きわめて）低いものの、アンケート結果から見て、授業の教育目標はある程度達成されたと思われる。教育をめぐる状況の変化はめまぐるしいので、毎年、新しい情報を盛りこんでいく工夫を続けたい。授業時間中に受講生相互の意見交換の場を設定することが難しいため、「まなびネット」の「フォーラム」の活用をうながしているが、学生にはあまり積極性がみられない。課題に対するフィードバックにも心がけているが、受講生の受け止め方は不十分に感じる。これらの点が、今後の課題だと考えている。

理系の学生には、高校化学との関連性を示して、それとは異なる新しい視点を解説した。また、レポートの考察のポイントを示した。文系の学生には難しい内容であるので、親しみやすいトピックスを紹介したり、テーマに対して自分の意見を求めるような出席レポートを書かせて、講義への積極的な参加を促した。イメージやエッセンスを伝えられるよう努めたい。

今学期から授業の感想は、教員に加えて受講生同士でも感想を読んでもらえるよう、毎回の授業の冒頭で前回分の授業の感想の読み合わせを行った。具体的には掲載の許可が得られた感想をすべて（匿名化したうえで）印刷し、次回の授業で配布して、個人で印象に残った感想を選んだうえで、グループで印象に残った感想を選んでもらった。その結果、受講生の間にも「感想を読んでもらえる」という意識が芽生えて、回を追うごとに感想の具体性が高くなった印象（個人の経験に結び付けながらわかりやすく意見を論じる）を受けた。

学生が意欲的に取り組めるような魅力ある関連資料や参考文献を探していきたい。

学生が卒業した後の生活が豊かになるような知識を伝えられるように授業を進めました。しかし、教授するだけの一方通行になってしまったので、学生が授業の内容に関心をもち自ら学びを深められるように授業を組み立てる必要があることを感じました。

自分が担当する授業の中では、ICT環境の整備を含めて、積極的な活用を心掛け、ICT活用指導力の向上に寄与するような授業を展開するようにしている。改善点として、学生からの要望を次年度に反映させたい。

独自工夫は過年度に書いたこととほぼ同様ですが、今年度の事情としてアンケートの回答率が極端に悪かったことを反省せねばと思っています。授業中に回答を促したのですが、十分ではなかったようです。もし同様の傾向が続くようであれば、何か対策を考えなければと思っています。

講義の授業では特に、映像資料などを使用して授業するように心がけた。改善するべき点は、生徒間でのディスカッションの少なさだ。もう少し場を設け、知識の定着を図るとともに、授業でのメリハリをつけておくべきだった。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

後期授業アンケートに回答して下さった学生さんの人数が割と少なかったので、正確なところが掴みにくいが、後期全体を総括して、反省すべき点を述べていきたい。毎回この評価書を書いて思うことだが、授業アンケートに真摯に答えてくれる学生さんのためにも、しっかり反省し、これを今後に生かしていかなければならないと考える。それぞれ授業によって多少対応が異なるが、全体としては以下のような内容ではあるが、反省の気持ちを記しておきたい。

【現在の工夫点】

・学生に興味や関心をもってもらうため、できるだけ分かり易く、基礎基本を重視している。理論と演習のバランスを常に考えている。また、苦手意識を克服できるよう、個人個人のレベルや達成状況の把握に努め、そして、それに合った対応を心がけているつもりである。アンケート結果は調査参加人数が少ないため、参考にしにくいところもあるが、以下の点を改善点として更に努力していく所存である。

【今後の改善点】

- ・グループディスカッションも多く取り入れていきたい。
- ・難しいところがあるが、他の分野や事象との関連づけを、さまざま考えたい。
- ・課題探求力を高めるべく、自ら主体的に調べる方法を模索したい。
- ・ICTの効果的利用を更に考えていきたい。
- ・カリキュラム上、学生の思うように選択履修ができていないところがある。学生の負担にならないよう、演習発表等に配慮する必要があると思う。
- ・授業内での無駄のない時間配分と方法を考えたい。
- ・模擬授業に関して、様々なアイデアや工夫を盛り込めるよう、可能な限り支援していきたい。そのために教材研究に一層力を注ぎたい。
- ・教員としての資質・能力に寄与する有益な授業を、これからも模索していきたい。

ハイブリッド授業では、オンデマンドで新しい知識の獲得や制作活動を行い、対面ではそれらをアウトプットする場を設けて進めている点です。概ね効果的に受け取られていると思う一方、大人数である、どうしても行き届かない点や、相互評価に対する不信感などもあるようです。またすべてオンデマンド授業については、さらに難しさも感じます。相互評価すること自体を教育活動ととらえたり、相互評価自体をチェックする仕組みがあると良いと思いました。来年度は相互評価のコメント欄にどうしてそのような評価をしたのかについて記述する活動を取入れたいと思いました。

長年教えている科目について、受講生の反応によって色々対応ができ大きな問題はなかった感じです。一方で、初めて使用したテキストの授業では、思ったほど使い勝手が良くなかったため、授業準備で苦勞しました。また、学生発表の際の資料について、フォーマットを統一しても、それに従わない学生もいるため、今後の検討事項とします。

前半の自由科目(1)では講義形式を基本とし、実際の保育現場で行われる実践について知り、意見交換ができるような授業づくりを意識した。後半の自由科目(2)ではグループごとに模擬保育を行い、保育者・子ども・観察者の立場から、実践的な指導法を考えて学ぶことができるようにした。アンケート結果から、模擬保育では互いの保育を見合い保育の方法について学ぶことができたと思われるが、文献等から知識を得る時間が少なくなってしまったため、書籍を紹介するなどして学びを深められるように改善したい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

○独自に工夫していること

本学以外に、公立中学校で拠点校指導教員として初任者研修を担当している。その初任者の悩みや喜びなどを授業で紹介することで、若い先生や現場の“今”を伝えることを大切にしてきた。また、実際に初任者が抱える問題や困り感を講義の中で話し合ってきた。

○アンケート結果を受けて

【設問8】の「関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った」の評価が低かった。90分の講義で完結する講義を行ってきた。今後は、講義をきっかけに“各学生が自ら調べ、レポート等にまとめる機会や、そのレポートを基にした話し合いの機会を設定していきたい。

受講生の興味・関心をふまえ、受講生の将来に役立つような授業を行っていきたいと考えます。

- ・シラバスに示してある評価方法について、授業の中でも繰り返し説明するようにした。
- ・授業については、はじめに本時の目標を必ず伝え、学生が授業の終わりのイメージをもてるようにした。
- ・グループワーク・ペア活動を積極的に取り入れ、学生自身が主体的に授業に向かえるようにしている。
- ・学生から提出された課題に対して必ず目を通し、よいところを見つけてコメントをし、授業に向かうモチベーションを上げるようにした。また、質問が書かれていた場合は、返却時に説明をすることで理解を図った。
- ・教育法、教育内容については、教える立場になったらという視点での講義に努めた。
- ・体調不良や公欠の欠席について課題を出すなど、個別に細かく対応し授業の遅れがないように努めた
- ・学生からの要望により、来年度も課題に対してできる限りリフレクションを心掛けていきたい。また、引き続きまなびネットへ必ず資料を載せるようにし、学生がいつでも授業を振り返れるようにしたい。
- ・問1の「授業内容の「意義や必要性」について十分に説明され、さらに学びたいと意欲がわくものであった」、問2の「理解しやすいように、資料や機器の利用、活動環境設定、コメント提供などに工夫のある「教え方」が展開された」、問3の「予習・復習などの自主学習や小テスト、レポート等の課題について授業やシラバスで指示があった」に関しては、回答者66名中、96%、98%、96%が、よくあった、ある程度あったを選択していることから、学生の授業に対する期待に一定応えることができたと考えている。
- ・授業案作成時には、ポイントをわかりやすく伝えるようにしていきたい。

①独自に工夫している点……学生の席は座席指定にしているが、扱う内容(教材)ごとに席替えをしている。他学年、専攻に関係なく、さまざまなタイプの受講生と交流できるようにしている。

②アンケートの結果を受けての改善点……ペア活動、グループ活動における交流が学生各々の学びにつながり、学生の意欲や達成感につながっているように感じている。ロイロ学習も含め、学生が取り組みたいと思える授業作りをしたい。

現場の話をより分かりやすく、紙面や写真にて提示するように心がけています。

できる限り院生の考えを拾い、広めるよう努めた。実務としての経験が小学校中心で高校の経験がないので、「小・中・高まんべんなくという点から話す」という意識を持って望むことがいると感じた。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

ICTを活用した授業、また話し合いを中心とした授業が高く評価されているので、今後も続けたい。AIによる学習指導案診断と改善も、さらなる改善を後押ししており、有効だった。

パワーポイントで作成したスライドを穴埋め式にしてポイントを示しているが、一方で学生は受け身になりがちのように思われる。アンケート結果から自ら学ぶ意欲が低い傾向が見て取れるので、課題を課すことも考えたい。

学校現場で役立つ実践力を身につけることを第一に考えて授業を行った。アンケート結果を受け、今後も主体的・対話的で実践力が身につく授業を行っていきたいと思う。できれば、対話的な場面をもっと増やしていきたいと思うが、教室内の人口密度が高く、机移動等が思うようにできないことが残念である。

一つの目標として実習があるので、それに向けて現在学んでいる内容がどうつながるのか、イメージしやすくしている。また、毎回、授業後のミニレポートを提出してもらい、疑問や学んだことについて返答をしている。その結果、満足度は高いものになっていると感じる。

必修科目において当日の授業目標と前提知識ならびに理解度を確認する設問を記載した「理解度確認チェック表」を配布している。加えて、次の授業時間のはじめに理解度チェック表にある設問を選んで復習テストを実施している。これらから受講生が授業内容を復習することを促している。

まなびネットを利用し、毎回、課題プリントとその解答を公開し、学習内容の定着を促しました。アンケート結果を受けて、学生同士の学び合いの時間が少ないことが課題にあることが分かりました。学生主体の授業構成が可能な単元を模索してみたいと思います。

- ・化合物の構造をわかりやすくするため授業で分子模型を用いるようにしている。
- ・年々学生の理解度の低下が見られるので、基本的な事項を繰り返し振り返る様にしている。
- ・学生とのコミュニケーションが必要であると感じるが、その実行が難しい。

今年度は活発なグループ・ディスカッションができるように、あらたな課題を設定しました。その取り組みについて多くの好評を頂いたので継続したいと思います。

<工夫している点>

グループディスカッションや自主的に調べる学習を増やしている。将来教員になったときに必要なIT機器の使用能力を高めるために、コンピュータを使った学習ツールを多用している。

<改善点>

他教科との関連性を持たせているつもりであったが、学生は英語を理解することに精一杯で、言語学習を超えた学びまで至らなかった可能性がある。英語学習の難易度を下げ、そのかわり、他分野への興味関心や論理的思考へ注意が至るようにしたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

小学校の学級担任として音楽の授業を行うことを想定して、必要な知識や技能が身につくような授業内容を実施してきた。また、教育実習に行った際に役立つことも組み込んだ。ほとんどの学生たちが熱心に取り組んだと思う。ただ、教育実習に行っていない2年生なので、一部の学生は関心が薄いようだった。歌唱、器楽、鑑賞、創作などの活動をまんべんなくバランスよく授業に取り入れて実施するのが理想だが、今回は小学校3年生で指導するソプラノリコーダーに慣れてもらうために、レパートリー表を学生に渡して自主練習に取り組んでもらった。アンケートに書かれていたように、鍵盤ハーモニカももう少し時間を費やせるとよかったと思う。

おおむね良好なアンケート結果であった。この3年間で、毎回、改善を続けてきている。より学生に分かりやすい課題の提示と説明をしていきたい。

学生の制作した作品を毎回採点し、上位者の作品を展示している。美術は良い作品を制作することで、構成力・描写力・色彩表現等を身につける。

講義内でグループでのディスカッションなど、学生同士の話し合いや関わり合いを増やしていこうと思う。

提出された振り返り用紙にコメントを入れて学生に返却している。また、振り返り用紙に記入された内容をそれ以後の講義において取り上げ理解を深めることができるように努めている。今後の社会生活や職業生活において役立つ力を身に付けることができるよう振り返り用紙の記入の仕方や資料提示の仕方に工夫を一層凝らしていきたい。

授業では特に以下の2点を独自に工夫しています。1つ目に、PowerPointや配布資料では、「伝わるデザイン」等を参考に色彩やフォント等を工夫し、ユニバーサルデザインを心掛けています。アンケートでも資料が見やすいと肯定的意見が学生からありましたので、継続します。2つ目に、大人数の講義授業（専門教育科目）ではリアクションペーパーであげられた質問に対して授業で扱い、フィードバックすることで学生との双方向的なやりとりを意識しました。この点は好評であった一方、学生が自ら授業の疑問点を文献等で調べて深める機会をより多く作れるように、今後は教員からの解説だけではなく、学生が疑問を調べる機会も組み込んでいきたいと思います。

授業資料（投影パワポ資料、配布プリント）を、それだけを見れば分かるような、スタンドアローンなものにしている。投影パワポ資料をまなびネットにおいて、授業中・前後に閲覧できるようにしている。可能な場合は、発展学習などのためのタスクを明示あるいは提案するようにしている。また、適切な場合には、「ミニクイズ」や「ペア・グループでの意見交換」などのアクティブラーニング要素を取り入れている。アンケートから具体的改善点を想起することは容易でないが、スライドなどをより分かりやすくする、資料内に補足説明用のリンクや参考文献も記載し、自主的な学習が可能な環境を整備していくことは今後も考えたい。

内容や形式の特別な工夫はないが、コミュニケーション機会を作るように心がけている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

毎時間のテーマについて、具体的な事例を用いて少人数でのグループ・ディスカッションを毎回実施した。これについては、学生からの前向きな反応が授業の振り返りでも非常に多く寄せられており、本アンケートにおいても、問4「教員から意見が求められたり、グループ・ディスカッションを行ったりするなど、質疑応答の機会があった。」に回答した学生の9割近くが「よくあった」と回答しており、効果があったことを感じる。毎回資料を配付するとともに、授業前にまなびネットに授業資料を掲載し、予習・復習にも活用できるようにした。さらに、毎時間前時の振り返りシートに記入された質問に回答したり、感想・意見を話題にしたりしたことで、問2「理解しやすいように、資料や機器の利用、活動環境設定、コメント提供などに工夫のある「教え方」が展開された。」について、回答している学生全員が「よくあった」「ある程度あった」のいずれかの回答だったことは昨年度の反省を踏まえた取組みが評価されたと感じる。一方で、「授業のなかで提示された専門的知識を、体系的に、また他の分野や事象とも関連づけながら理解できた。」については、「よくあった」より「ややそう思う」の方が幾分多く、他の分野などとの関連についても、わかりやすい説明が行えるように努力したい。さらに、「授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った。」については、「あまりそう思わない」や「まったくそう思わない」と回答した学生もあり、授業内でも資料、参考文献の紹介をさらに増やすとともに、学生が取り組みやすい内容の紹介を心がけたい。

第1回目のオリエンテーションで受講生との対話を通して、授業目標に基づいた内容・方法について、確認をしたり、改善をしたりして、授業者と受講生がお互いに納得できるように授業計画を立てる。共通の授業目標に向かって、何をすべきかを明確にする必要がある。

まなびネットを活用し、授業資料を提示したり、適宜授業中に復習を兼ねた設問に回答させるようにしている。また、授業で絶対に理解してほしいことを折に触れ話し、重視していることを明確に伝えるように心掛けた。アンケート結果については、回答する時間を設定しており、必ず回答してほしい旨伝えていたにもかかわらず回答率が非常に悪かったため、あまり改善の参考にはならなかった。回答率を上げ、自由記述に記述されるようにする必要がある。

授業方法は、パワーポイントと手書きの併用にて、授業スピードと内容の充実のバランスを保つ工夫をしている。しかし、他の教科、専門内容との関係性や体系性について、指導が及んでいなかった。この点については、今行なっていることと、それがどのような広がりを見せるのかを意識しつつ指導を行なっていくこととした。

自分で選択できるSDGs調査課題を提出させ、そのあとに有志報告者を中心に発表会をしているが、近年自ら報告したいという者が減っていることや偏りがあるため、共理解が深まらない受講生もあった。グループディスカッションの時間をとったり、二次的三次的な学びの機会を創っていかうと考えている。

工夫点は教員3名によるRP。ゲストティーチャーの招聘。改善点はゲストティーチャーの選定。

必要な情報がより伝わるよう努めます。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業方法については、学生自身が試行錯誤を重ね、仲間と議論を交わしながら授業をつくりあげていく過程を大事にしている。模擬授業を行うことが発表のメインとなるが、1回の模擬授業ではなく、議論の後に2回目を行うことで、それぞれが振り返り、自身の力にしていけることを求めているが、実際には議論の時間が足りないことが多く、苦慮しているところもある。アンケートについては、回答している学生が少なく、声掛けが足りなかったと反省している。

この授業では、将来、社会人になる前の最後の学生教育の段階で「ヘルスサイエンス」についての講義を行っています。現在から将来にわたる自らの健康のみならず、次世代の健康の保持および増進をすすめていくために、健康とその周辺にかかわることを理解し、説明できることを目標にしています。その性格上、学ぶべき項目は非常に多岐にわたり、膨大なものであります。工夫を行った点として、内容を理解しやすくするため、スライドを視覚的なものにしたり、動画を利用したりしていました。また講義時に内容を理解しやすいように、後に復習がしやすいように、まなびネットでスライドを提示していました。また内容においては、その講義内容が心理職にどのようにかかわってくるのかをイメージしやすいように心がけていました。アンケート結果からは、授業中に学生に意見を求めたり、ディスカッションをしたりするような時間をあまりとれなかった点が課題と理解しました。次年度からの講義では、学生が自ら考える時間を設定していくようにしたいと考えます。

実践的な学びにつながる授業展開を心がけている。今後は、受講生が授業目標に対する到達の程度を自己評価できる工夫を行っていきたい。

学生の意見を見るために、レスポンスペーパーを毎回提出してもらい、質問については次回に回答しているが、ディスカッションやグループ学習のような参加とは異なっていると思われる。そうしたものが大人数参加の授業についても可能かどうか考えたい。

学外での実習となるため、事前に目的意識をもたせて臨ませるように指導している。各々のレポートや考察を共有し話し合う時間を十分に確保したい。

実際に江戸時代の和本を学生に手に取ってもらい、それを活用してグループごとに和本の調査をして、発表することで和本の知識を習得してもらえそうな工夫を行なった。一方で、専門知識の体系化が乏しい1年生の授業で行なったため、グループによっては難しさによる停滞感を抱いたと思う。したがって、学生が自ら調べる時間と教員が体系的に専門的な知識を伝える時間のバランスを改善する必要があると感じた。

授業内容については、教科内容と教育法とが関連する事柄について確認できるような取り組みをしている。授業方法については特に、学生のアクティブラーニングおよびPBL型の学習の機会を組み込む工夫を講じている。これらの具合は、学生のやりとりにおいて授業内で改善していくようしている。

大学の授業は、学生は教員からの指示を待つだけでなく自ら学ぶ姿勢を持つことが重要であると考え。しかし、「さらに学びたいと意欲がわくものではなかった」との回答があるように学生の知的好奇心を刺激できなかったことは反省しなくてはならない。今後、授業の内容や教え方に工夫が必要であると考え。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学生の個性を引き出せる授業改善を検討中。また、ICT教育の方法について研究中である。

リテラシーの授業(宇宙・天文学)では、理数科目を不得意としている学生が多数受講しているため、授業の冒頭で「宇宙の不思議さ」を提示することで、その授業の興味を引き立てるよう工夫している。一方、やむを得ず数式で説明しなければならない部分については、難しさを感じる学生が一定数いるようであるので、よりわかりやすく伝えるような工夫を取り入れたい。

学生が主体的に活動できる授業内容になるよう、工夫している。

学生との双方向性を重視し、コミュニケーション(リアクション)ペーパーの返答に時間を割いていることは有効であると考えられる。しかし予習・復習が少なく、授業のみならず課題を通してもう少し考える時間を確保してもよいと考えられるので、課題の内容を再検討する。

丁寧な資料、豊富な事例、丁寧にわかりやすい説明、ときどきディスカッションを取り入れる、科目によっては学生に発表をしていただくなど、丁寧に体系的な授業内容と学生の主体性や生活との対話的關係に心を砕いています。今年度は全体に学生の反応が今一つでした。アンケートを見る限りではその原因があまりわからなかったが、学生の自由記述を読む限り、次のことが推察されます。つまり、スライドや画像を多用する教員が増え、学生が抽象と具体を行き来するような思考をする習慣が全体として失われているような感覚があります。具体は学生の生活と教育を結び付ける上で重要ですが、具体が授業に使用される割合が増えすぎると、抽象と具体を行き来できるような思考を学生が行わなくなるため、本来大学生や大学院生に身に付けていただきたい、理論的抽象的な力で具体を分析・総合する能力を育てられなくなってしまいます。主体的・対話的で深い学びや具体ばかりを求める授業が流行して久しいが、そのことの弊害が大きく現れつつあるように感じています。本来人間が人類が蓄積してきた文化的遺産を後継に引き継ぐためには、具体だけでは不十分です。具体と抽象を行き来する思考力を身に付けなければなりません。私の授業もほかの教員のように具体ばかりの授業にするか否か、迷います。

実技科目では、個々の良さや必要としていることを感じ取り、それを少しでもより多く引き出そうとすること、また本人のもつ不安や苦手意識をプラスに変えようとすることに努め、対話や課題設定にこだわりをもっている。時間は限られており、配分はとても難しいが、来年度はよりよく開講できるよう、授業形態のあり方を探りたい。同時に、内容や意義についても、他の教員と話し合って深めていきたい。義務教育における実践家の先生と協力して行う科目では、学生の教育実習がより充実した時間になるよう、またそこでの経験を次の機会に活かせるよう、思考を深め、挑戦・失敗できる場の提供に努めている。こちらも引き続き、さまざまな先生方のお力添えをいただきながら、内容や方法を探りたい。

問いを多くして考える授業を行っている。授業から学習へ。学生が学ぶように対話や話し合いを取り入れたリ、グループワークをしたりしている。

野外で観察することを取り入れている

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

実践事例を映像を交えながら紹介したり、実体験を組みこんだ活動を行ったりしている。学生レポートへのフィードバックを大事にしている。より理解を深め、実践力を育む為、自分で調べ、考える活動を増やしたい。

できるだけ現場の実践とつながる内容にした

授業用に講義資料だけでなく、記入式のノートも配布している。アンケートは回答者数が少なく、全体の傾向を確認することはできなかったが、回答者の70%に学習への意欲と満足を読み取ることができた。まずは目標は達成できていると考えたい。

当講義内容に影響を与えている思想、理論を講義に組み込み時事問題に梯子をかける形で講義を行うことで疑問を持ちやすい部分の理解を促した。また、当講義においては、性質上女性の問題が取り扱われることが多いが、男性の問題を意識して取り上げること、1つの時事問題に対して男性、女性、LGBTQの各々の立場からそれぞれがどのような形で弱い立場に置かれうるかということを取り上げた。

専攻学生については概ね目標を達成して、学生も充分に応えてくれていると思う。専攻外学生の授業における課題設定の仕方がやや難しく、学生側と教員側の思惑の乖離が見られ、今後熟慮が必要と感じた。

学生間でのディスカッション等の内容をもう少し取り入れていきたい

ディスカッションを通じて自分以外の意見を「同じ」「違う」の観点だけでなく、広い意味で捉えることができることを目指しているが、実施の方法については意見の出し方など、学生がストレスなくできるよう工夫したい。日本語教育実習について、実習前に実際に教える場を見学したり、動画を見たいという要望があったが、これについては検討したいと思う。指導案の書き方については、より丁寧に説明をするようにする。

授業ではテキストだけでなく視聴覚教材を利用したり、パワーポイントによる解説等を取り入れたり、適宜、「まなびネット」を活用したり、グループでのディスカッションと発表も取り入れたりした。アンケートは少ない回答であったが、設問5と6でどちらとも言えないという回答が少なからずあった。この授業における専門的知識とは何か。それらを体系的に他の分野と事象に関連づけながら理解するとはどういうことなのか。汎用的な能力を高めることとはどういうことなのか。これらは生活科と総合的な学習（探究）の時間において本質的な内容である。今後、それらを受講生自ら意識して考え習得するような機会や活動を創意工夫したい。

比較的少人数の授業ではグループディスカッションなどを行い主体的な学習を実践できたが、大人数の講義ではそのような手法をとることができず学習者にとってやや退屈感を与えたようであった。今後は大人数の教科でも「まなびネット」などの機能を活用して学生が主体的に学習できるような工夫を心がけたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

私が後期に担当した講義は「専門教育科目(1)」「専門教育科目(2)」「専門教育科目(3)」である。専門教育科目(1)では作図のはなしを通して、体論の初歩を説明した。作図は実際の初等教育の授業で扱われる内容であり、教育学部で代数学を学んでえられる大事な応用の1つである。専門教育科目(2)では群と環を中心に抽象代数学の入門を講義した。群・環は教育現場で扱われることはないが、初等教育で学ぶ算数・数学の一般化を知る意味では大切であり、論理的思考力を鍛える意味でも学ぶ意味はある。専門教育科目(3)では1変数積分を取り扱った。高校で学ぶ数Ⅲの内容より詳しく積分や級数の説明を行った。数学の先生になる人には少しでも論理的説明に慣れてほしいというこちらの思いがある。そのため講義では証明する機会が多くなり、学生にとっては説明が難しく聞こえたかもしれない。こちらとしては講義のときはわからなくても、後で復習してじっくり理解してもらえればいいのであるが、学生にはそのあたりの認識が不足しているのではないと思う。今後も証明も大事にしつつ、得られた結果にどのような応用・発展があるのかを説明に取り入れていきたい。

授業の一部で、グループで課題を自主的に進める形式を試している。

前半で用語の定義や現状などを解説し、後半でそれに関連する事例を提示することで知識と実践を結び付けられるように工夫している。福祉分野の学生にも教育分野に関する関心を持ってもらえるよう、より教育現場についてイメージしやすい授業内容を心掛けたい。

1つの科目については、反転授業を行なった。事前に授業内容を勉強してきてもらい、授業初めにその確認テストを行い、その後復習をした。しかしその確認テストの出来が良くなく、結果的に自信を無くさせてしまったかもしれない。それゆえ授業においては、復習から入ってグループワークした後に確認テストを行なってみたい。もう一つの科目に関しては、初めにこのような応用があるということを与えておいたつもりだが、あまり身近な応用ではなかったため、モチベーションがあまり上がらなかった学生がいたようである。それゆえ可能な限り身近な応用を初めに与えるようにしたい。

授業資料について概ね高評価であった。資料の誤りについての指摘があったため修正した上で、今後もわかりやすい授業展開と資料の活用に取り組みたい。

一方的な講義にならないように演習問題・小テストを取り入れて、学生同士の学び合いを促した。講義授業と演習授業の進度の差についての意見があったので、それぞれの進度に気をつけながら学生が意欲的に学べるように工夫していきたいと考えている。

アフターコロナを踏まえ、オンライン授業が有効な学習内容、対面でなければならぬ授業を精査し、基礎知識については、オンデマンド、ワーク・発表・実習・実技については対面授業というように、担当科目の改善を試みてきた。自分の担当科目については、アンケートを見る限り、おおむね、満足度は高いだろうと推察できた。改善点については、より満足度を高めるための工夫を検討することである。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

3年生対象の科目ということもあり、実習を通して学んできた現場の実践と、それまでに大学で学んだ理論をいかに往還して考えられるようにするのか工夫して講義を組み立ててきました。アンケートの結果を見る限り、多くの学生さんたちが理論と実践の往還ができたと回答してくれているのでこの点は継続して講義を行なってきたいと思います。また、講義内で取り上げきれないトピックについては、授業外でさらに学べるよう参考資料などを学びネットに追加でアップしたことも、一定の効果があつたようなので続けていく予定です。グループワークについては、ICTツールを活用して進めようとFIGJAMを活用しましたが、ネットワークの不安定さやツールのレスポンスの遅差が原因で話し合いが止まってしまうことがありましたので、もう少し他のツールの活用なども検討していきたいと考えています。

基礎楽典を学んだ後に、音楽の教育現場で必要となるピアノ伴奏ができるように、基本的なコードを覚え、小学校で歌う曲でコード伴奏を実践した。弾きやすいコードということもあり、能動的に練習してきてくれる学生もあり、アレンジをするなど応用する学生もみられた。アンケートでは、合唱や楽器演奏も取り入れてほしいという内容があつたので、より実践的な内容を取り入れたい。また一人一人の習得具合を注意深く見ていきたい。

学部の専門科目では実践を取り入れながらアクティブ・ラーニングを実施できるようにしています。しかし、もっと事例の解釈なども取り扱った方がよいなど意見もありましたので、今後の授業で改善していきたいと考えています。また、受講人数の多い授業における双方向のやりとりについても検討していきたいと思います。

ディスカッションとフィードバックを心がけています。単純に発表するだけではなく、フィードバックを受けて改善し、もう一度発表するという機会を作っています。参考文献などの提示をもっと積極的に実施するようにします。

クラスに関するアンケートの回答率が非常に低かったため、来年度はより多くの学生に回答を促したいと考えております。授業内での議論や交流の水準については、学生の満足度が高いように見受けられます。しかしながら、シラバスをより明確にし、より挑戦的な内容を追加することが、授業のさらなる改善につながるものと思われます。

外国語不安を煽らない授業実践

工夫している点:できるだけ学生主体の授業を構成していく。模擬授業や自らの生活の中から課題をみつけ、課題解決をしパワーポイントを用いて発表するなど。

改善点:家庭科という教科のみならず、どの教科にもつながる、発展的な教育方法を取り入れた授業の開発。

専門科目(S)については、最新の動向や身近に起こった事件を取り入れている。

「授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動」を学生がとるような授業はかなり難しい。担当する授業では、成績評価に関連する課題や活動を厳密に設定し、それを受講生に伝えるよう工夫しているが、それが逆に、教員が指示した成績評価に関係した学びしか行なわない学生を増やしてはいないだろうか。成績評価に直接関係しない活動を自主的に行うような授業については今後も検討を続けたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

「自由科目(1)」「自由科目(2)」では、幼児の表現の実態を理論的かつ体感的に学ぶため、実践活動(遊び)を多く取り入れている。また、アクティブラーニングの視点から、座学においてもディスカッションを要所に取り入れ、意見を共有しながら自分の考えをまとめていく力を養えるようにしている。「問5教員から意見を求められたり、グループ・ディスカッションを行ったりするなど、質疑応答の機会があった。」に若干数の回答があったが、今後も意識して質疑応答の機会をつくるよう心掛けたい。

学生が教材を作ったり、体験したりと多くの授業実践を体験できる様にしている。アンケートの結果は良いと思うが、一人なのでビックリです。私の最後のレポートに私について書いてもらっているのも、その結果を見て、次回に活かしています。

- ・授業では、毎回すべての学生に200～300字程度の意見・質問・感想を書いて、提出させています。すべての記述について、教員の朱筆を入れて、フィードバックをしています。
- ・学生の意見・質問・感想については、次の授業の最初で取り上げて、受講学生に共有しています。
- ・授業中に3回は発問し、他の学生と協議する時間を設けています。協議した内容について、数名の学生を指名して、意見を述べてもらっています。
- ・聴覚障害児を想定した模擬授業の演習を行っています。授業力を高めるための指導を重視しています。
- ・学生からは「求められるレベルが高い。」「やや厳しい」というコメントがあります。しかしながら、特別支援学校教諭・一種免許状(聴覚士障害)を取得し、聴覚特別支援学校の教員として即戦力として働けるように、免許状に見合った専門性を身に付けてもらいたいと思います。そのため、学生に理解を求めつつ、授業を行っています。

専門教育科目(1)では、文学作品について先行研究の要約・評価、またその作品についての考察をグループで発表し、作品を多角的に捉えられるような活動を意識している。アンケートでは、汎用的な能力を身につけられたか／自ら参考文献などを調べたかといった間でそう思う・ややそう思うの回答率が高く、発表や質疑応答を通して学びを得たと感じる学生がいたとともに、資料の扱いや授業に向けての姿勢の育成にもつながったと考える。自由記述欄では、質疑応答の前に、質問を考えるための時間が少しほしいという声があったので、今後実施していきたい。また、発表に入る前には、発表で行う事柄を短く記述してみる練習の時間も設けているが、発表内容の指針がもっとあるとよいという声もあったので、何が評価基準として大切かも具体的に説明していきたい。専門教育科目(2)・自由科目でも、体系的に学ぶことができたか／汎用的な能力を身につけられたかといった間でそう思う・やや思うの回答率が多いとはいえものの、全体的な回答率が低かったため、データの有効性を高めるためには、回答率を上げる工夫が必要となる。これらの科目は、授業アンケートの入力期間には、対面授業の機会がおおむね終了しており、授業の中で記入する時間を設けることができないため、リマインドを繰り返し送るなど工夫していきたい。また読書と豊かな人間性では、ビブリオバトル・ブックトークを行ったフィールドワークが、楽しんで取り組むことができ、読書の魅力に気付く機会となったという声もあったので引き続き実施していきたい。

アンケートの結果状況に拘わらず、学生の皆さんの多様な履修歴や進路志向に見合う内容や方法を踏まえて、彼らが身につけないといけない意識や能力の基準に合わせて到達度が確認できるようにしようと思っています。ただ、学修意欲の向上は期末試験の準備状況を含めてあまり感じられなくなっているのも、受講にあたっての学生による目的や目標の確認作業が重要になるなと考えています。